

9 看護局業務

(1) 看護局ミッション

地域住民の健康な生活を支え、地域に根ざし信頼される看護を提供します。

(2) 看護局ビジョン

- 1 患者さん、地域の方にとって信頼される安全で安心な医療を提供すると共に、患者さん中心の看護を探求します。
- 2 組織は人なりという考えに立ち、組織人として期待される責務を果たすという信頼関係を基盤とし、相互に人を大切にする組織運営に努めます。
- 3 組織の方針に寄与し、めざす看護を実践し、キャリア形成を主体的に行う自立した看護師の育成を目指します。

(3) 平成 30 年度 看護局目標

- 1 安全で安心な看護の提供
- 2 円滑な病床管理
- 3 教育体制の充実
- 4 魅力ある職場環境づくり

(4) 平成 30 年度 看護局目標評価

ア 安全で安心な看護の提供

ベッドサイドを中心とした看護の提供、他職種と安全な療養環境の共創、高齢者看護の充実等に取り組んだ。

平成 30 年 2 月に電子カルテが導入され、ベッドサイドで記録ができるようになったことから、セル看護提供方式®を参考にして、エリアを決めてペアで看護を行う足柄式看護提供体制を整え、ベッドサイドを中心とした業務方法に転換した。これにより業務のスリム化が図られ、ナースステーションから離れた病室の患者対応がスムーズになり、日勤ではベッドサイドにいる時間が増加し、転倒転落の予防にもつながる等の効果があった。

内服管理や食事提供体制、感染対策、転倒転落防止などの安全対策については、「他職種と共創する」という視点をもって他職種を交えて検討し、共に 1 つの仕事を成し遂げる（共創）という意識を持てるようにした。

また、高齢者看護の充実を図るために、高齢者の摂食嚥下に焦点をあてた学習会の開催や、認知症ケアマニュアルの作成に取り組んだ。そして、「看護の視点を軸に捉えなおす」ことを重点に置き、ヘンダーソンの看護理論を活用した看護展開の浸透を図った。

イ 円滑な病床管理

入院前から退院を見据えた看護システムの構築、断らない救急受け入れ体制の強化等に取り組んだ。病棟スタッフによる入退院支援を強化するため、入退院支援リンクナースを配置し、地域医療連携室主導のもと、入退院支援の標準化、訪問看護ステーションにおける交流研修を通して相互理解を深めた。

また、足柄式看護提供体制を実践して“空床があれば受け入れる”という看護科長の病床管理は、スタッフの意識改革に繋がった。その結果、ナースステーションから離れた病床が活用でき、救急患者受け入れ個室の回転が改善し、病床利用率が昨年度の 76.6%から 83.1%に上昇した。

ウ 教育体制の充実

「キャリア形成の手引き」の改定、看護師教育支援ガイドの作成、新人教育体制の充実等に取り組んだ。PNS®を参考にした教育体制にしてから 3 年が経過し、改めて看護局の理念と地域や看護職員構成等の特徴を踏まえて、継続教育のあり方について検討した。患者とのかかわりを通した日々の看護実践こそが、新たなケアを創造し、一人ひとりの能力を伸ばしていく土台になるという考えを基盤にした「足柄式教育体制」を再構築した。そして、院内研修や分散教育は OJT を基盤とした方法に見直し、各研修支援ガイド、看護師教育支援ガイドを新たに作成し運用した。

エ 魅力ある職場環境づくり

働きやすい職場環境の整備、看護職員確保・定着対策の強化等に取り組んだ。

働きやすい職場環境の整備については、働き方改革関連法や日本看護協会の夜勤・交代制勤務に関するガイドラインと照らして課題を抽出した。3交代の勤務インターバルの確保は、職員個々の事情に配慮しながら正循環や2交代への移行を進めた。これは看護職員夜間配置加算の施設要件の充足となり、5A、5B病棟の夜勤を4人体制に変更して夜間看護業務の負担軽減を図ることができた。

また、2交代の夜勤拘束時間短縮に向けて、各勤務帯の業務の見直しを進めるなど継続的に検討を進めることにした。また、看護補助者の定着を促進するために、看護科長代理が中心となって看護補助者の業務内容を安全の視点から評価し、やりがいをもって働けるように、看護補助者と定期的に話し合う場づくりをした。

(5) 看護外来業務

外来では、医師・看護師・薬剤師・栄養士・臨床心理士など多職種が協働して患者の療養生活を支えている。その中において看護師も、専門的知識・技術を活かし看護ケアを行っている。フットケア外来では、糖尿病療養指導士の資格を持つ看護師が糖尿病患者の足病変に対するケアを行い、糖尿病一日教室でもフットケアを実施している。また、皮膚排泄ケア認定看護師による相談室を開設し、日常生活に合わせたケアの方法などを患者家族と共に考え、専門的できめ細やかな指導を行っている。

(人)

区分 年度	フットケア外来	糖尿病1日教室	ストーマ外来
28年度	2	15	91
29年度	2	21	169
30年度	1	11	214

平成 30 年度 院内研修実績

段階	研修名		目的・目標	方法	人数
採用時研修	新採用看護職員 採用時研修		病院の組織・環境・業務に早く適応できるよう、当院の概要を知る 専門職業人としての自覚を持つ 安全な看護実践のための具体的な方法を学ぶ	講義・演習・GW	39
	リフレッシュ研修		2ヶ月間の体験を振り返り、気持ちをリフレッシュし、今後への意欲がもてる	散策・語り	25
	ステップ共通		看護実践における倫理課題に気づき、その解決に向けた行動がわかる	講義	10
ステップⅠ	実践	看護過程Ⅰ	患者を生活者として捉えるために、情報の分類・整理の方法がわかる 指導を受けながらアセスメントの考え方がわかる	講義、GW	25
	実践／教育	社会人の学習方法	働きながら、学習する方法がわかる	講義	25
		看護技術	基礎的な知識・技術がわかる	講義、演習	25
	管理	メンバーシップ研修	メンバーシップ能力を養う	シャドウイング	25
ステップⅡ	実践	看護過程Ⅱ	根拠に基づいた看護過程の展開ができる	事例展開、発表	13
	教育	後輩育成Ⅰ	後輩に関心を持ち、関わるができる	講義、GW	9
	管理	リーダーシップ研修	リーダーシップ能力を養う	シャドウイング	14
ステップⅢ	実践	看護過程Ⅲ	個別に応じた看護過程が展開できる	事例展開、発表	13
	教育	後輩育成Ⅱ	レディネスをふまえた関わりとは何か考えることができる	講義、GW	14
	管理	役割研修Ⅰ	問題解決過程に必要なスキルを養う	交流研修 問題解決過程の展開 発表	13
ステップⅣ	実践／教育／管理	役割研修Ⅱ	看護局内の問題解決を通して問題解決能力を養う 問題解決に多職種を巻き込みながら、取り組むことができる	交流研修 問題解決過程の展開 発表	9

あしかみベーシック

当院に特化した共通項目でベーシックとして学んでいくもの

日 程	テーマ	人数
10 月 10 日	高齢者の摂食嚥下について（食事編）	24
10 月 22 日	地域特性をふまえた当院の役割と地域医療連携の実際	19
11 月 12 日	高齢者の摂食嚥下について（薬剤編）	26
12 月 7 日	高齢者の摂食嚥下について（口腔ケア編）	19

平成 30 年度 オープンセミナー開催実績

研修名	開催日	講師	人数
がんの痛みをアセスメントできる！ ～基礎編～	9 月 28 日	がん性疼痛看護認定看護師 善波いづみ	13
全人的苦痛の考え方 ～症状コントロールが難しい がん患者にどう向き合うか～	10 月 3 日	緩和ケア認定看護師 曾我輝之 山口ひろみ 桐生光代	11
がんの痛みをアセスメントできる！ ～薬剤編～	10 月 26 日	がん性疼痛看護認定看護師 丸岡陽子	11
がんの痛みをアセスメントできる！ ～実践編～	11 月 30 日	がん性疼痛看護認定看護師 香川仁美	7

平成 30 年度 学会・院外研修参加実績

<学会>

学 会 名 (分 野)	開催地	開 催 日	人数
日本クリティカルケア看護学会 学術集会	東京	6 月 30 日、7 月 1 日	1
日本災害看護学会 日本看護学会 学術集会 急性期看護	兵庫	8 月 10、11 日	1
日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会	宮城	9 月 8、9 日	1
日本褥瘡学会学術集会	神奈川	9 月 28、29 日	2
日本クリニカルパス学会学術集会	北海道	10 月 12、13 日	2
日本死の臨床研究会年次大会	新潟	12 月 8、9 日	1
日本集団災害医学会総会	鳥取	3 月 18～20 日	1

<長期研修派遣>

受 講 分 野	日 程	人数
教員・教育担当者養成過程 看護コース 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター	4 月～3 月	1
保健師助産師看護師実習指導者講習会 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター	5 月～11 月	1
保健師助産師看護師実習指導者講習会 東海大学健康科学部看護学科	9 月～12 月	1

保健師助産師看護師実習指導者講習会 横浜市立大学医学部看護学科	8月～12月	1
看護師実習指導者講習会 昭和大学保健医療学部	8月～12月	1
認定看護師教育課程 認知症看護コース 聖路加国際大学 教育センター 生涯教育学部	4月～3月	1
特定行為研修秋期入学コース F 慢性疾患管理モデル 日本看護協会 看護研修学校	9月～3月	1
家族看護学 CNS コース 東海大学大学院健康科学研究科	4月～（研修中）	1
認定看護管理者教育課程ファーストレベル 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター	4月～9月	1
認定看護管理者教育課程セカンドレベル 神奈川県看護協会	10月～3月	1
認定看護管理者教育課程セカンドレベル 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター	10月～3月	1
認定看護管理者教育課程セカンドレベル 昭和大学看護キャリア開発・研究センター	5月～9月	1
認定看護管理者教育課程サードレベル 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター	6月～10月	1
医療安全管理者養成研修 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター	10月～2月	1
医療安全管理者養成研修 神奈川県看護協会	11月～12月	1

＜神奈川県立病院機構 看護職員研修＞

コース名	日 程	会 場	人数
医療安全	6月7日 10月25日	神奈川県立病院機構本部	2
看護倫理・臨床倫理	6月25日 9月27日	神奈川県立病院機構本部	3
人材育成	6月28日 10月19日	神奈川県立病院機構本部	5
問題解決・リーダーシップ	6月8日 10月26日	神奈川県立病院機構本部	1

＜神奈川県立病院機構 看護職員交流研修＞

場 所	研 修 内 容	日 程	人数
神奈川県立精神医療センター	看護師実務研修	1月～（研修中）	1

<交流研修>

研 修 場 所	研 修 内 容	日 程	人 数
神奈川県立がんセンター	ステップⅢ研修	7 月 17、30 日	1
神奈川県立がんセンター	ステップⅣ研修	9 月 6、25 日	1
神奈川県立循環器呼吸器病センター	ステップⅣ研修	9 月 11、21 日 10 月 22 日 11 月 13 日	1
神奈川県立循環器呼吸器病センター	ステップⅣ研修	10 月 22 日	1
小田原市立病院	ステップⅣ研修	9 月 6 日	1
小田原市立病院	ステップⅣ研修	9 月 12 日	1
聖マリアンナ医科大学病院	ステップⅣ研修	9 月 25 日	2
小田原市立病院	看護科長研修	9 月 6 日	2
小田原市立病院	看護科長研修	9 月 30 日	1
横浜労災病院	看護科長研修	9 月 19 日	1
保土ヶ谷区医師会	看護科長研修	9 月 19 日	1
済生会横浜市東部病院	看護科長研修	10 月 4 日	1
聖ヨハネ会桜町病院	看護科長研修	10 月 15 日	1
東海大学医学部附属病院	看護科長研修	10 月 24 日	1
厚木市立病院	看護科長研修	11 月 6 日	1
神奈川リハビリテーション病院	看護科長研修	11 月 28 日	1
南足柄市訪問看護ステーション	訪問看護ステーション研修	7～9 月（各 1 日）	3
足柄上医師会訪問看護ステーション	訪問看護ステーション研修	7～9 月（各 1 日）	3
鶴巻訪問看護ステーションあしがら	訪問看護ステーション研修	7 月（各 1 日）	2
訪問看護ファミリー・ホスピス小田原	訪問看護ステーション研修	9 月（各 1 日）	2

<神奈川県看護協会>

会場：神奈川県総合医療会館

研 修 名	日 程	人 数
入院から行う退院支援 ～ベッドサイドから地域へ～	6 月 1 日	1

褥瘡ケアの実際	6月25日	1
わかりやすい栄養管理 ～栄養代謝のアセスメントとチームアプローチ～	7月2日	2
看護補助者活用推進研修①	6月5日	1
がん看護の基本～がん患者を支える看護の役割	9月28日	1
高齢者支援と認知症患者の看護②	9月13、14日	1
インターネット配信研修 認知症高齢者の看護実践に必要な知識	9月10、11日	3
地域包括ケアシステムにおける外来看護の役割	9月22日	1
急変を予測したフィジカルアセスメント①	11月6日	1
コミュニケーションⅡ ～チームリーダーのためのコミュニケーション～	11月21、22日	1

<その他の研修>

主 催	研 修 名	日 程	人数
日本麻酔科学会	周術期管理チームセミナー	5月19日	1
神奈川ストーマ研究会	第34回神奈川ストーマリハビリテーション講習会	6月23、30日 7月1日	1
日本臨床看護マネジメント学会	重症度、医療・看護必要度院内指導者研修	6月24日	3
公益財団法人かながわ健康財団	神奈川県看護職員認知症対応力向上研修	7月31日 8月7、24、27、 31日	4
日本臨床倫理学会	臨床倫理認定士養成研修基礎編	9月30日 10月21日 11月4日	1

<その他、公開授業への参加、施設見学等>

研 修 場 所	研 修 内 容	日 程	人数
伊勢原協同病院	摂食嚥下チーム活動見学	7月19日	1
神奈川県立平塚看護大学校	なでしこ公開講座	7月30日	1
神奈川県立よこはま看護専門学校	老年看護学 公開授業	9月13日	1

平成 30 年度 実務研修受入実績

<看護職員交流研修等>

所 属	研 修 内 容	日 程	人数
神奈川県立がんセンター	看護師実務研修	8 月～3 月	1
神奈川県立精神医療センター	看護師実務研修	10 月～（研修中）	1
神奈川県立循環器呼吸器病センター	摂食・嚥下障害看護認定看護師の活動見学	10 月 24 日	1
神奈川県立こども医療センター	助産師実務研修	12 月～1 月	2
神奈川県立平塚看護大学校	ユニフィケーション（教員）システム	4 月～3 月	1

<高校生インターンシップ>

参加者	新名学園 旭丘高等学校 3 年生 2 名
日 程	9 月～11 月（計 8 日）
目 的	・生徒が自ら職業を学び、実際に職業体験を行い、実社会で学んだことをレポート作成、相互に発表学習をする中で、職業準備（労働観の育成）をおこなう ・実社会での様々な職業を体験することで、その経験とこれまでの学んできた知識の統一を図る
内 容	看護師または看護補助者のシャドウイングおよび一部体験（ベッドメイキング等）多職種（薬剤師、管理栄養士、放射線技師、臨床検査技師）のシャドウイング

<その他>

主 催 施 設	研 修 名	日 程	人数
草加市立病院	院内助産病棟見学	5 月 15 日	3
神奈川県看護協会	地域連携のための相互研修会	10 月 18 日	1
神奈川県立保健福祉大学 実践教育センター	教員・教育担当者養成過程看護コース 看護教育実習（臨地実習における授業）	11 月の 5 日間	1
八木病院	手術室看護研修	12 月 11 日	1
小田原市立病院	手術室部門システム見学	2 月 14 日	4

平成 30 年度 施設見学等 受入実績

< インターンシップ >

	日 程	人数	参加者の在籍校
第 1 回	4 月 14 日	3	神奈川県立よこはま看護専門学校
第 2 回	6 月 2 日	8	国際医療福祉大学、神奈川工科大学、厚木看護専門学校 静岡県立東部看護専門学校、たまプラーザ看護学校
第 3 回	8 月 3 日	20	神奈川県立平塚看護大学校、湘南平塚看護専門学校 神奈川県立よこはま看護専門学校、小澤高等看護学院
第 4 回	3 月 19 日	40	国際医療福祉大学、神奈川工科大学、東海大学 神奈川県立よこはま看護専門学校、おだわら看護専門学校

< 病院見学 >

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
人数	0	0	0	2	1	0	2	0	0	0	0	3	8

平成 30 年度 高校生職業体験会 開催実績

< 高校生一日看護体験 >

対象者	高校生
日 程	7 月 27 日（金）
参加者	28 名（1～3 年生） 在籍校：県立山北高校、県立吉田島高校、県立小田原高校、県立小田原東高校、 県立西湘高校、県立秦野高校、県立茅ヶ崎北陵高校、県立伊勢原高校、 県立平塚中等教育学校、立花学園高校、新名学園旭丘高校、明德学園相洋高校、クラーク 記念国際高校
目 的	看護師を目指す地域の高校生が、体験を通してイメージを膨らませ進路選択に役立てられる
内 容	看護師の仕事について紹介、ユニフォーム更衣、病棟体験 手術室見学、ガウンテクニック体験、看護技術体験（点滴接続・滴下、ガーゼ固定） 看護師養成校の説明（県庁職員）

平成 30 年度 かもめのたまご計画（就職前支援）開催実績

対象者	当院の就職内定者（自由参加）
日 程	8 月 2 日、2 月 26 日（全 2 回）
目 的	入職前に新入職者同士の顔合わせができ職場環境を知ること、入職に対する不安が軽減する
参加者	第 1 回（8 月 2 日）：9 名 第 2 回（2 月 26 日）：7 名
内 容	第 1 回（8 月 2 日） ・顔合わせ、自己紹介 ・学習支援 e ラーニング（看護技術、国家試験過去問題集）の紹介 ・スキルラボ（演習室）の紹介 第 2 回（2 月 26 日） ・病棟体験、シャドウイング ・昼食会 ・公舎内覧 ※12 月～1 月にかけて、看護師国家試験の模擬試験を通信教育で実施

平成 30 年度 復職支援研修 開催実績

対象者	復職や転職を検討中の方、技術に不安がある方、最新の医療の動向に興味のある方
日 程	9 月 20 日、11 月 6 日（全 2 回）
参加者	延べ 5 名
目 的	復職や転職に対する不安を解消する
内 容	1. 医療・看護・福祉の動向 2. 安全対策について－最新の知識－ 事故の種類と予防策 3. 感染対策について－最新の知識－ 標準予防策と感染経路別対策、オムツの取り扱い 4. 看護技術（モデル人形を使用した演習） 静脈血採血、静脈内注射、点滴管理（輸液・輸注ポンプ等）、吸引、口腔ケア 5. 就職後のサポート体制

2018年度 看護学実習受入実績

[illegible][illegible]

10 助産関連業務

助産師は院内助産の実施に伴い、満足度の高いお産ができることを目的とした妊婦健診と保健指導（助産師外来）や母乳育児の支援として母乳育児外来や相談業務を行い、出産前から後まで継続した支援を行っている。

区分 年度	院内助産	助産師 外来	ペア クラス	母乳育児 外来	おっぱい 大好き 倶楽部	産後育児支 援のための 電話訪問	骨盤体操 クラス
28年度	97人	707人	178人	138人	19組	66人	
29年度	44人	470人	67人	102人	12組	21人	8月～開始 33人
30年度	53人	565人	66人	134人	16組	※	67人

※ 産後2週間目の検診を開始したため電話訪問を中止とした。

1 1 各種活動報告

(1) 感染対策会議（感染管理室）活動報告

院内感染とは医療機関において患者が現疾患と別に新たに得た感染症や職員が医療機関において感染した感染症のことである。当院では、院内感染防止のため①スタンダードプリコーション及び感染経路別予防策の実践②感染情報を共有③感染症発生状況の報告、分析、評価、この3点の考え方を基本とした感染対策を行い、患者・全職員・地域を含めた安全な環境確保を図る視点からも感染防止に取り組んでいる。

感染管理室は感染管理室長（副院長・感染制御医師）、感染管理室室長補佐（内科医師・感染制御医師）1名、室員（感染管理認定看護師）1名から構成され活動している。

1. 感染防止対策に関する診療報酬について

感染防止対策加算1・地域連携加算を継続算定し、高台病院、西湘病院、間中病院と連携し、合同カンファレンスを4回/年実施した。地域連携加算相互評価では、茅ヶ崎市立病院を当院が評価し、当院は平塚市民病院による評価を受け、総合評価は「A:適切に行われている」であった。平成30年度より抗菌薬適正使用支援加算が新設され、Antimicrobial Stewardship team（AST）抗菌薬適正使用支援チームを立ち上げ活動を開始した。

2. 神奈川県立病院機構感染防止対策会議（4回実施/年）

神奈川県健康医療局保健福祉部県立病院課担当、県立病院機構本部職員と6病院（当院・子ども医療センター・精神医療センター・がんセンター・循環器呼吸器病センター・神奈川リハビリテーション病院）の感染担当で、感染防止対策の推進に向けて情報共有、感染に関する教育の検討などを行った。

3. 感染対策会議（定例12回実施/年、臨時会議1回実施）

院内感染防止、感染症発生時の措置及び感染対策を推進する組織に関して必要な事項を定める会議である。Infection control team（ICT）感染制御チームミーティングの報告や感染リンクナース会議の報告を受け、当院の方針を決定した。臨時会議ではインフルエンザ対策を検討した。

4. ICT ミーティング（53回実施/年）・AST ミーティング（49回実施/年）

メンバー構成は、感染管理室長、室長補佐1名、臨床検査技師（感染制御認定臨床微生物検査技師）1名、薬剤師（感染制御認定薬剤師）1名、事務職員1名、室員1名の計6名である。毎週木曜日にミーティングを開催し、血液培養結果検討、耐性菌検出者検討、抗菌薬の適正使用及びケースラウンド、院内ラウンドを実施した。院内感染防止対策マニュアルの改訂、新型インフルエンザ等の対策、結核接触者健診、その他の感染対策を検討し、感染対策会議に提案した。

5. その他

	項目	今年度	前年度	備考
①	耐性菌サーベイランス	MRSA（感染患者割合）	2.50	2.04 (延べ入院患者に対する 感染患者数×1000)
②		ESBL（感染患者割合）	2.36	
③	血液培養件数		2050 件	1617 件
④	血液培養 2 セット率		99.1%	98.7%
⑤	特定抗菌薬届出提出率		96.7%	93%
⑥	バンコマイシン治療薬物モニタリング [※] （TDM）		35 名	19 名
⑦	職員インフルエンザワクチン接種率		89%	90%
⑧	院内研修受講者数（延べ人数）		1762 名	1323 名
⑨	院内研修実施回数		23 回	23 回
⑩	感染対策便り発行		12 回	13 回
				基本は月 1 回の発行

- ・サーベイランスは、①②に加え、厚生労働省院内感染防止対策サーベイランス（JANIS）検査部門・全入院患者部門及び手術部位感染（SSI）部門に継続参加した。
- ・平成 30 年度より抗菌薬適正使用支援チームが活動しており、③～⑥が昨年より伸びているのは、チーム活動、介入による影響も考えられる。
- ・季節性インフルエンザ対策は、「神奈川県インフルエンザ定点報告数」と院内の入院患者状況から面会者にサージカルマスクの着用を義務付け、「咳エチケット」ポスター掲示で啓発した。1 月から 3 月中旬まで院内面会禁止とした。感染拡大することはなかった。
- ・結核対策では、2 件の事例に対し接触者健診が必要となり、延べ 31 名に接触者健診を実施した。
- ・院内研修では、非常勤職員や変則勤務者などが参加できるように、DVD 研修等を取り入れた。看護職には、E ラーニングを用いて標準予防策の学習を行い、手指衛生の推進を図った。

< 院内研修 >

主な研修テーマ（一部抜粋）	
新入職者等研修	院内感染対策について
泌尿器科軟性鏡洗浄手順	安全器材とハリクイの使用法
CV カテーテルについて	器材の取り扱い・環境整備
肝炎について～B 型肝炎、C 型肝炎～	臨床感染症の考え方・感染症治療概論・抗菌薬
新型インフルエンザについて	ウイルスによって起こる感染性胃腸炎

< 院外研修 >

施設	研修内容
神奈川県立中井やまゆり園	インフルエンザ・感染性胃腸炎
救急救命士	感染対策の基本

(2) 医療安全推進活動報告

- 医療安全研修は、技術演習、医療機器取り扱いと管理を中心に研修を実施した。全職員の83.9%（前年度－0.4%）が10ポイントの取得に至った。
- 有害事象・合併症報告は35件（H29年度47件）であり、内訳は造影剤による副作用が最も多い（14件）。当該部署内では事例の共有や対策検討は行えているが、部門を超えて症例検討会を開催することが課題である。
- 医療安全マニュアルを2018年2月に導入した電子カルテに対応できるように見直した。内服の処方指示・指示確認・実施入力に新システム（処方カレンダー）が導入された。処方カレンダーの運用基準を作成、周知を推進することで内服に関わるインシデントを防止した。見直しが終わっていない内容は次年度も継続して取り組む。
- 電子カルテシステムダウン時の運用基準作成、整備に取り組んだ。電子カルテシステムダウンの範囲に合わせた、障害発生時の連絡体制を明確化し、システム毎の障害発生時の対応について、担当者・連絡先等の一覧を作成した。システムダウン時の紙運用対応に必要な書類・伝票類の一覧を作成した。洗い出した書類を緊急時に使用できる備品として整備することは継続課題として次年度取り組む。
- 電子カルテによる患者認証システムの導入に伴い、患者確認のルールを見直した。患者認証を周知し患者誤認発生率は減少したが、実施前に患者確認を怠ったことによる患者誤認を無くすることが課題。
- 転倒転落については、80歳以上の入院患者の割合が年々数%ずつ増えている現状があり、転倒転落発生件数は増加した。レベル2以上の転倒転落事例を分析し、入院患者の基本動作（起居・移乗・移動動作）評価の重要性が明らかになったので、次年度は基本動作を評価する体制づくりに取り組む。
- 離院・離棟時の対応の周知を目的に、日中に離院が発生した設定で患者役を作り搜索活動を実践できるシナリオで訓練を行った。マニュアルのフロー通りの搜索分担の不都合や院内放送の活用など課題が明らかになった。次年度は、夜間休日訓練の実施、役場・警察等との連携訓練の実施を課題として取り組みを継続する。

① 会議の開催

医療安全管理会議 毎月1回 第4水曜日 / リスクマネジメント会議 毎月1回 第3金曜日に開催

	リスクマネジメント会議	医療安全管理会議		リスクマネジメント会議	医療安全管理会議
第1回	平成30年 4月20日	平成30年 4月25日	第7回	平成30年 10月19日	平成30年 10月24日
第2回	平成30年 5月18日	平成30年 5月23日	第8回	平成30年 1月16日	平成30年 11月28日
第3回	平成30年 6月15日	平成30年 6月27日	第9回	平成30年 12月21日	平成30年 12月26日
第4回	平成30年 7月20日	平成30年 7月25日	第10回	平成31年 1月18日	平成31年 1月23日
第5回	書面会議	書面会議	第11回	平成31年 2月15日	平成31年 2月27日
第6回	平成30年 9月21日	平成30年 9月26日	第12回	平成31年 3月15日	平成31年 3月27日

主な検討内容

月毎のヒヤリハット・アクシデント報告、医療安全巡回と報告（6月、10月、2月）、事例検討（7月、9月、11月、1月）、医療安全推進ニュースの検討、医療安全マニュアルの見直し、医療安全対策地域連携相互評価の報告、医療安全推進会議及び医療安全ワーキングの報告、医療安全週間開催と実施報告。

② 研修活動

	研修区分	対象	内 容	開催回数	参加 延べ人数
1	医療安全研修	全職員	医療安全急変時対応BLS・シミュレーション研修	1	65
		全職員	医療ガス供給設備・取扱いについて	1	54
		医師・看護師	CVカテーテルについて ガイドラインを含めて知りましょう	1	76
		全職員	ImSAFER	1	26
		医師・看護師	経鼻栄養チューブの挿入と管理	1	45
		看護補助者	看護補助者研修	1	34
		全職員	心電図モニター管理について	1	65
		全職員	災害時食事の配膳訓練	1	44
		全職員	急変時対応シミュレーション	1	50
		全職員	リスクマネジメント会議での事例報告	1	13
		全職員	30年度 医療安全活動報告会	1	47
		全職員	麻薬の管理について知ろう	1	28
		全職員	摂食・嚥下研修	1	143
		全職員	褥瘡対策研修	1	115
		全職員	災害トリアージ	1	71
		全職員	リハビリ教室(杖と歩行器)	1	17
		全職員	人工呼吸器	1	64
		全職員	認知症患者の意思決定支援	1	50
2	医療安全研修 セクション共同開催	全職員 一部対象限定 看護職員 研修医	ユマニチュード ITB勉強会 分娩期の看護について 新生児の異常の判断 新生児の病態 糖尿病について 敗血症 THA術後患者のリハビリ 褥瘡対策&摂食嚥下の姿勢調節 アルコール疾患について 免疫検査ピットホール がんの痛みアセスメント 筋委縮性側索硬化症 セデーションについて 認知症高齢者の口腔ケア ポジショニング 血液製剤の取扱い Im SAFER せん妄について等 計51研修	51	830
3	医療安全・感染防止研修	感染症対策委員会活動報告参照			
4	リスクマネジメント会議	会議構成員	リスクマネジメント会議の事例検討	4	61
5	採用時研修 (オリエンテーション)	転入・新採用職員 研修医	転入・新採用職員研修医採用時研修	2	109
		中途採用	中途採用者研修	1	5
6	DVD研修	全職員	医療安全DVD視聴	1	138

③ 医療安全週間（期間：平成30年11月8日～11月15日）

職員の医療安全に対する意識向上と、患者や来院者の医療安全活動への参画を推進するために開催。①近隣児童生徒の絵画コンクール（応募作品16点）②医療安全取り組みの展示（テーマ：5S活動～転倒・転落予防の視点から～）③参加型企画は手洗いチェッカーを使用した「正しい手洗い」を体験するイベントを企画した。3日間で59名の来院者が参加し、インフルエンザ流行前に普段の手洗い行動を振り返る機会となり手洗いを通して感染対策への意識付けを高めることにつながった。

④ 平成30年度ヒヤリ・ハット事例及びアクシデント報告

神奈川県立病院機構においては、ヒヤリ・ハット事例及びアクシデントの内容に応じて、そのレベルを以下のように設定しており、当院もそれに準じてデータをまとめた。

【用語の定義】

医療事故

医療法における医療事故の定義と同一とする。すなわち「当該病院等に勤務する医療従事者が提供した医療に起因し、又は起因すると疑われる死亡又は死産であって、当該管理者が当該死亡又は死産を予期しなかったものとして厚生労働省令で定めるもの」をいう。なお、医療事故に該当するかどうかの判断に当たっては過誤の有無は問わないから、過誤がなくても医療事故となる場合もあり、過誤があっても医療事故とはならない場合もあることを留意する。

アクシデント

過誤の有無に関わらず、医療の全過程において発生する下記（ヒヤリ・ハット事例及びアクシデントのレベル）のレベル3b以上の事例のことをいう。

ヒヤリ・ハット事例

ヒヤリ・ハット事例とは、日常診療の場で、患者に医療又は管理を行う上で、「ヒヤリ」としたり、「ハッ」とした事例で、アクシデントに至らなかったものをいう。

以上の医療事故、アクシデント、ヒヤリ・ハット事例を包括的に「医療事故等」という。

ヒヤリ・ハット事例及びアクシデントのレベル（表）

区分	レベル	内 容
ヒヤリ・ハット事例	レベル0	間違ったことが発生したが、患者には実施されなかった場合
	レベル1	間違ったことが実施したが、患者には変化が生じなかった場合
	レベル2	実施された医療又は管理により、患者に予期しなかった影響を与えた可能性があり、観察の強化や検査の必要性が生じた場合
アクシデント	レベル3	a 実施された医療又は管理により、患者に予期しなかった軽微な処置・治療の必要性が生じた場合
		b 実施された医療又は管理により、患者に予期しなかった若しくは予期していたものを上回る何らかの変化が生じ、濃厚な処置・治療の必要性が生じた場合
	レベル4	実施された医療又は管理により、患者の生活に影響する予期しなかった若しくは予期していたものを上回る高度の後遺症が残る可能性が生じた場合
	レベル5	実施された医療又は管理により、予期せず患者が死亡した場合

ア 全体報告数（表1 図1）

リスク感性の向上と報告の透明性を維持するため、レベル0（未然に防げた）と1（患者に影響が無かった）の報告増加とレベル2（患者に影響を及ぼした可能性）以上の報告減少を目標としている。

レベル0の報告件数は303件から285件に減少、レベル1の報告は1,213件から1,489件に増加、全体の報告数も422件増加した。

表1 インシデント・アクシデント年度別報告数

区分	レベル	28年度		29年度		30年度				
ヒヤリ・ハット事例	0	216	1,249	303	1,516	285	1,774			
	1	1,033		1,211		1,489				
	2	214	235	181	204	348	366			
	3a	21		21		17				
アクシデント	3b	0		2		1				
	4	0		0		0				
	5	0		0		0				
合 計		1,484		1,718		2,140				
レベル2以上発生率※1		15.8%		11.9%		17.1%				
入院における報告	全発生率 % ※2	2.00%		2.11%		2.07%				
	レベル0.1発生率% ※3	1.70%		1.79%		1.68%				
	レベル2以上発生率‰ ※4	3.16‰		2.41‰		3.90‰				

※1 レベル2以上報告数／全体数

※2 入院分報告総数／延べ入院患者数

※3 入院分レベル0.1報告数／延べ入院患者数

※4 入院分レベル2以上報告数／延べ入院患者数

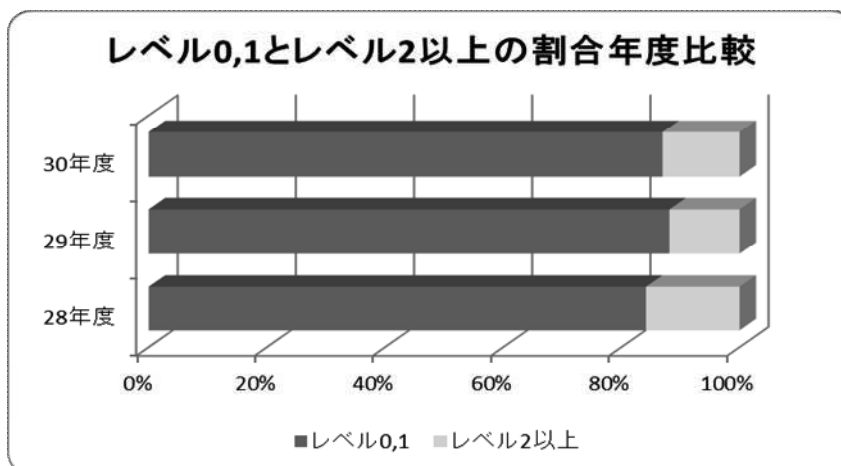


図1 レベル0,1とレベル2以上の割合年度比較

イ 事象別事故報告（表2、図2）

上位3項目は例年と同様でドレーン・チューブ類に関するもの510件（+121件）23.8%が最も多く、2位：転倒・転落で275件（+59件）12.9%、3位：内服薬254件（-25件）11.9%。4位は給食・栄養から検査256件（+148件）12.0%に変わった。これは、検査における採血量不足等の報告が増加したことにより、適切な採血実施への注意喚起となった。

表2 事象別事故報告件数

事象	①平成30年度		②平成29年度		①－② 件数
	件数	構成比	件数	構成比	
指示・情報伝達	67	3.1%	81	4.7%	-14
薬剤（処方・与薬・調剤・製剤管理）	452	21.1%	464	27.0%	-12
注射・点滴	162	7.6%	129	7.5%	33
内服薬	254	11.9%	279	16.2%	-25
その他	36	1.7%	56	3.3%	-20
輸血	9	0.4%	8	0.5%	1
治療・処置・診察	84	3.9%	67	3.9%	17
手術	54	2.5%	22	1.3%	32
麻酔	3	0.1%	1	0.1%	2
その他治療	2	0.1%	7	0.4%	-5
処置	16	0.7%	24	1.4%	-8
診察	9	0.4%	13	0.8%	-4
医療用具（機器）使用管理	25	1.2%	16	0.9%	9
ドレーン・チューブ類使用・管理	510	23.8%	389	22.6%	121
検査	256	12.0%	108	6.3%	148
療養上の場面	665	31.1%	509	29.6%	156
転倒・転落	275	12.9%	216	12.6%	59
給食・栄養	199	9.3%	182	10.6%	17
その他	191	8.9%	111	6.5%	80
その他	72	3.4%	76	4.4%	-4
合 計	2,140	100.0%	1,718	100.0%	422

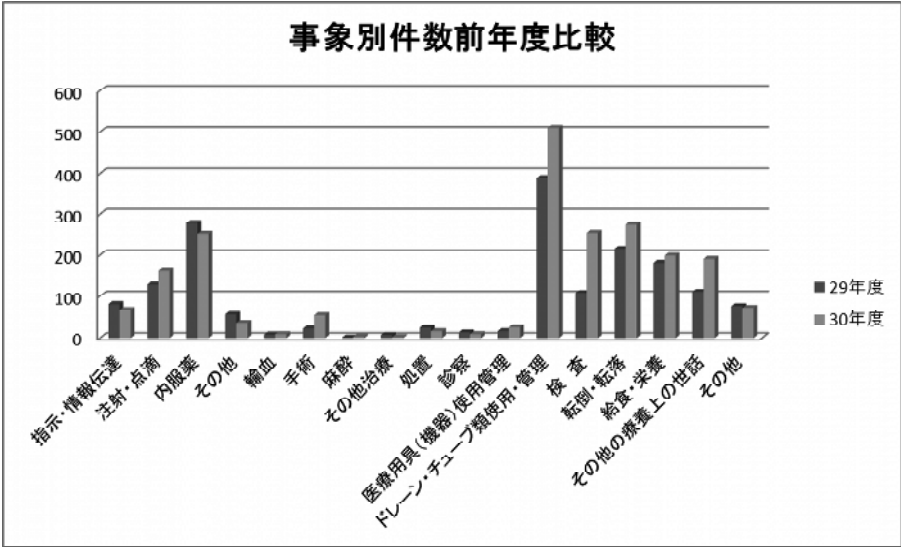


図2 事象別件数 前年度比

ウ 時間帯別事故割合（表3、図3）

時間帯別では、10～11時台、次いで12～13時台、16～17時台が多い。勤務交代時間や検査・処置、食事時間の移乗や与薬などケア等が重なる時間となっている。また夜間帯の報告件数も一定の割合で継続し、点滴の自己抜去や排泄行為等に伴う転倒転落が事象の大半を占めている。

表3 時間帯別事故割合

発生時間帯	②平成30年度		②平成29年度		①－② 件数
	件 数	構成比	件 数	構成比	
0～1時台	70	3.3%	87	5.1%	-17
2～3時台	77	3.6%	59	3.4%	18
4～5時台	101	4.7%	69	4.0%	32
6～7時台	190	8.9%	135	7.9%	55
8～9時台	227	10.6%	158	9.2%	69
10～11時台	273	12.8%	204	11.9%	69
12～13時台	239	11.2%	242	14.1%	-3
14～15時台	231	10.8%	162	9.4%	69
16～17時台	234	10.9%	179	10.4%	55
18～19時台	206	9.6%	165	9.6%	41
20～21時台	123	5.7%	95	5.5%	28
22～23時台	89	4.2%	89	5.2%	0
その他（時間帯不明等）	80	3.7%	74	4.3%	6
合 計	2,140	100.0%	1,718	100.0%	422

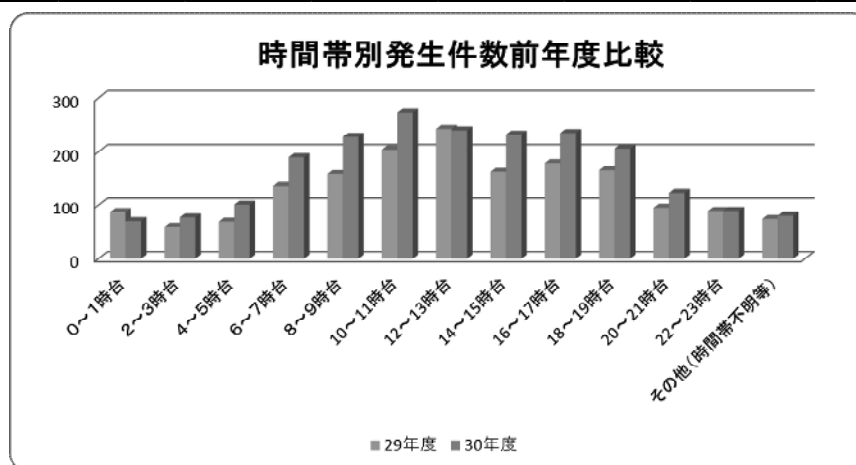


図3 発生時間帯別事故件数 前年度比較

次年度も引き続き生命に関わる重大事故レベル4・5を起こさないように取り組む。また、ヒヤリ・ハット事例報告のレベル0,1報告を共有し対策を講じることで、レベル2以上を減らすことに努める。

転倒転落を増やさない取り組みとして、①基本動作（起居・移乗・移動動作）を入院時から継続して評価するシステムの構築、②患者に適したベッド周囲環境の整備、③せん妄を予防する眠剤使用の標準化に向けて活動する。また、患者誤認を減らすために、患者確認のルールを見直し、実施前の患者確認が確実に実践できる体制づくりに取り組む。

(3) クリニカルパス検討会議

平成 30 年 2 月電子カルテ導入により、クリニカルパスは電子カルテ運用となった。
運用しながら、検討・修正を実施した。

2018 年度 クリニカルパス使用実績

診療科名称	パス名称	件数			
総合診療科	大腸内視鏡・粘膜切除術(1泊2日)	42	泌尿器科	前立腺針生検	125
	内視鏡の胃粘膜切除・粘膜下層剥離術	26		経尿道の膀胱手術	82
	大腸内視鏡・粘膜切除術(2泊3日)	22		経尿道の前立腺切除術	56
	内視鏡の逆行性胆管膵管造影	17		結石破碎術	33
	内視鏡の大腸粘膜剥離術	7		局所麻酔下尿管ステント挿入・交換術	26
	内視鏡下胃瘻造設・交換術	7		前立腺全摘出術	15
	ラジオ波焼灼術・経皮エタノール注入療法・肝生検	5		排尿指導	14
	腹部血管造影・肝動脈塞栓術	5		腰椎麻酔下尿管ステント挿入・交換術	11
	待機の食道静脈瘤結紮術(EVL)	1		腎摘出術	4
循環器科	心臓カテーテル検査	118	脳神経外科	脊髓腔造影(脳神経外科)1泊2日	34
	経皮的冠動脈形成術(PCI)	42		脳血管撮影	31
	ペースメーカー新規植え込み	16		腰椎手術(脳神経外科)	30
	ペースメーカー電池交換	11		手根管症候群手術	15
				慢性硬膜下血腫当日用	12
外科	成人鼠径ヘルニア根治術(前日) 最新版	112		頸椎手術(脳神経外科)	4
	腹腔鏡下胆嚢摘出術(前日入院) 最新版	50		脊髓腔造影(脳神経外科)2泊3日	3
	大腸癌 最新版	35	産科	産褥	53
	虫垂炎手術(前日入院)	10	眼科	白内障手術(PEA+IOL)	98
	成人鼠径ヘルニア根治術	6	皮膚科	帯状疱疹	30
	胃がん 最新版	5	集計		1614
	乳癌手術	2			
整形外科	大腿骨頸部骨折	129			
	腰椎手術(整形外科)	40			
	脊髓腔造影 腰椎(整形外科)	38			
	人工膝関節置換術	48			
	大腿骨近位部骨折 観血的整復固定術	43			
	橈骨遠位端骨折	24			
	下肢抜釘術	13			
	人工股関節置換術	19			
	橈骨抜釘術	10			
	上肢抜釘術	6			
	足関節骨折	6			
	脊髓腔造影 頸椎(整形外科)	6			
	鎖骨骨折	8			
	足関節抜釘術	6			
	頸椎手術(整形外科)	1			
	鎖骨抜釘術	2			

(4) 災害医療対策室

救急医療の現状については、第3章患者の概況「救急患者取扱状況」を参照。
研修・訓練・協議会等の取組みについては次のとおりです。

①院内防災訓練

大規模地震の発生を想定したトリアージ訓練及び、実態に則した設定での消防訓練を実施した。(平成30年4月1日～平成31年3月31日 計8回 参加者延345名)

②訓練・研修会参加

- ・平成30年7月26日 平成30年度神奈川県災害時医療救護活動研修会参加2名
場所：神奈川県総合医療会館
概要：災害時における医療の基礎的な知識や考え方を、実践的な災害対応の研修
- ・平成30年8月4日 大規模地震時医療活動訓練 DMAT1隊参加
場所：宮崎県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、大分県
概要：南海トラフ地震における具体的な応急対策活動に関するDMATの参集、本部活動、消防・警察等、他機関と連携した広域医療搬送等実動訓練
- ・平成30年8月26日 ビッグレスキューかながわ(神奈川県・海老名市合同総合防災訓練)
DMAT1隊、DMAT・DMAT-L混合1隊参加
場所：大和市立病院、厚木市立病院、県立相模三川公園
概要：現場救護所の運営訓練、DMAT活動拠点本部の運営訓練、傷病者の搬送訓練
- ・平成30年12月8日～9日 DMAT関東ブロック訓練 DMAT1隊参加
場所：千葉県(船橋医療センター、東京ベイ・市川浦安医療センター他)
概要：各都県DMATや関係機関と連携し、被災地における緊急治療、病院支援、病院避難及び広域医療搬送等の訓練
- ・平成31年3月25日～27日、3月5日～9日 DMAT隊員養成研修3名受講し修了
(医師1名・看護師1名・業務調整員1名)

③会議出席

- ・平成31年3月4日 県西地域災害医療対策会議 2名出席
場所：小田原市合同庁舎
概要：行政、警察、消防、医師会等と県西地域災害医療の推進について検討

(5) 褥瘡対策会議

褥瘡対策チーム活動

2018年度の診療報酬改定で、入院基本料の褥瘡に関する危険因子評価に皮膚の脆弱性（スキン-ケアの保有・既往）が追加され、又褥瘡ハイリスク患者ケア加算の項目にMDRPU（医療関連機器圧迫創傷）が追加となった。そのことから、スキン-ケアとMDRPUについて、院内研修会の開催と、褥瘡リンクナース会議の活動を通じて周知を行った。そして、自重褥瘡・MDRPU、スキン-ケアが発生した場合には、早期発見と共に早期介入・早期治療を目的に、医療安全のインシデントかアクシデントとして報告することを取り決めた。自重褥瘡以外で、MDRPU32件（前年+20件）、スキン-ケア19件の発生報告があり、その背景として、スタッフの認識や意識向上により報告数の増加に繋がっていると考えられる。医療安全推進室と連携しながら、褥瘡対策チームで介入をしているが、入院数に対する褥瘡危険因子保有者が増加している中、周知活動とあわせて、予防対策の強化に取り組む必要がある。

褥瘡有病者（院内外発生者）は年々増加傾向にあり、院内褥瘡発生患者においては、褥瘡発生後にウレタンマットレスから高機能エアマットレスへ変更した症例があった。患者個々に合わせた体圧分散寝具の選択や機能設定が出来ていない現状があるため、体圧分散寝具（高機能エアマットレス等）の研修会開催を予定している。

褥瘡関連データ

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
褥瘡危険因子保有者数	2,070名	2,172名	2,501名
褥瘡有病者数	164名	211名	255名
院内発生（自重褥瘡）	54名	73名	81名
院外発生	111名	140名	177名
入院数に対する褥瘡危険因子保有者の割合	36.2%	40.5%	44.6%
入院数に対する褥瘡有病者の割合	2.9%	3.9%	4.6%
院内発生者（自重褥瘡）の割合	1%	1.4%	1.4%
褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定数	886名	1,009名	1,033名

(6) ボランティア活動報告

3団体が定期的に活動している

団体名	活動日	活動内容
病院ボランティア会 ランパス	月／週 13:30～	移動図書、外来本棚整理、病棟患者対応
松田絵手紙の会	第4金曜日 14:00～	絵手紙作成
受付介助ボランティア	月～金曜日（平日のみ）	外来受付介助

(7) 臨床病理検討会（Clinicopathological conference CPC）

第60回 CPC 平成30年7月23日 16時00分より 研修室1

外科 米山 克也先生 研修医 赤松 遼一先生 病理診断科 亀田 陽一先生

「S状結腸憩室炎術後、心不全に至り死亡した症例」

出席者 19名

第61回 CPC 平成30年11月29日 16時00分より 研修室1

循環器内科 近藤 寿哉先生 研修医 久富 健介先生 病理診断科 奥寺 康司（横浜市大）先生

「心不全の治療中に脳梗塞を発症して死亡した症例」

出席者 28名

第62回 CPC 平成31年2月13日 16時00分より 研修室1

外科 米山 克也先生 研修医 渡邊 南穂先生 病理診断科 亀田 陽一先生

「心不全の治療中に脳梗塞を発症して死亡した症例」

出席者 24名

(8) 糖尿病対策会議

糖尿病医療の充実および、地域医療連携による地域糖尿病患者の合併症発症予防と悪化防止・QOLの維持向上の推進を図る目的で活動を行っている。

平成 30 年度の活動実績

1. 糖尿病公開医療講座、並びに地域医療連携による出前講座の実施

昨年度まで実施していた糖尿病フェスタを、関係機関の依頼で講師を派遣する出前講座「2市8町保健師研修」に変更して実施した。

また、病院主催の公開医療講座として『～糖尿病、私の場合～』のテーマの下、年間4回の「糖尿病公開講座」を行った。

回	月 日	講 師	テーマ	参加人数
第1回	5月23日(水) 17:00～18:00	内科医師	「あなたと糖尿病」	28名
第2回	7月25日(水) 17:00～18:00	管理栄養士 理学療法士	「食事療法/運動療法 病の質問に答える」	26名
第3回	9月26日(水) 17:00～18:00	薬剤師 臨床心理士	「薬物療法/ 参加者同士話す会」	16名
第4回 (出前講座)	12月12日(水) 13:30～16:30	糖尿病チーム	「糖尿病の方を地域で支える 保健指導」	35名
第5回	2月28日(水) 17:00～18:00	佐藤内科医院 院長 佐藤弘樹医師 (足柄上医師会)	「糖尿病、こんな時は どうする？」	35名

2. 糖尿病療養指導に関する院内研修の実施

昨年度行ったアンケートを基に、要望の多かった内容についてのスタッフ向け糖尿病勉強会を年間4回実施した。例年よりも多くの職員が参加し、幅広い内容の研修会を実施した。

回	月 日	講師	テーマ	参加人数
第1回	7月6日(金) 18:00～19:00	櫻井医師	糖尿病概論について	32名
第2回	9月6日(木) 18:00～19:00	糖尿病認定看護師 矢野 臨床心理士 大島	「糖尿病患者さんのフォロー」 ～糖尿病に向き合えない患者への関 わり方を考える～	17名
第3回	10月24日(水) 18:00～19:00	管理栄養士 奥野 薬剤師 佐久間 臨床検査技師 町田・加藤	糖尿病とコメディカル	31名
第4回	3月7日(木) 18:00～19:00	総合診療内科 柳橋医師	糖尿病総論 ～平成30年度総まとめ～	22名

(9)「医学講座」・「出前講座」

医学講座・出前講座企画運営会議

平成30年度 地域住民対象「医学講座」「出前講座」開催実績

回	日 時	テーマ	講 師	会 場	対 象
医学 第31回	6月30日（土） 14：00～16：00	「寝たきりにならない！ 生涯自分の足で歩く！！ ～『フレイル』について考えてみ ませんか？～」	①整形外科医 中村祐之 ②作業療法士 安孫子富美代	中井町 農村環境改善センター 2階 研修室1.2	市民・町民
医学 第32回	9月29日（土） 14：00～16：00	「「ハアハア、ゼイゼイ」 最近、息苦しくありませんか？ ～あなたの肺、大丈夫？ COPD（慢性閉塞性肺疾患）～」	①呼吸器内科部長 尾下文浩 ②管理栄養士 杉野万紀	山北町 健康福祉センター	市民・町民
医学 第33回	3月9日（土） 14：00～16：00	「胃カメラ検査～こわいけど …受けた方がいいの？～」	①消化器内科担当部長 國司洋佑 *休憩時 “健康体操” ②松田町 健康づくり係	松田町 松田町立公民館 展示ホール	市民・町民
出前 第1回	6月18日（月） 10：40～12：00	「子どもの病気や事故への対 応について」	地域医療連携室 助産師 佐藤良枝	開成町民センター	開成町ファミリーサポート会員 「まかせて会員・両方会員研修会」
出前 第2回	7月24日（火） 13：30～15：00	「いきいきと年を重ねるため に知っておきたい閉経後から のホルモンバランス」	地域医療連携室 助産師 佐藤良枝	中井町保健福祉センター	中井町 わかき会健康づくり研修会
出前 第3回	8月29日（水） 10：00～11：30	「ロコモ予防チェック」	理学療法士 新井昌行	山北町健康福祉センター	20歳以上の簡単な運動が出来る町 民
出前 第4回	9月26日（水） 10：00～11：30	「ロコモ予防チェック」	理学療法士 新井昌行	山北町健康福祉センター	20歳以上の簡単な運動が出来る町 民
出前 第5回	10月3日（水） 13：30～15：00	「糖尿病のお話し」	消化器内科 柳橋崇史	南足柄市 保健医療福祉センター	特定健診受診者
出前 第6回	10月22日（月） 10：00～12：00	「乳幼児の事故・病気の予防と 対処」	小児科 青木理加	バレットガーデン自治会館	利用されているお母さん達
出前 第7回	10月23日（火） 14：00～15：00	「内臓脂肪の悪影響について ～メタボリックシンドローム を理解しよう」	副院長 加藤佳央	開成町保健センター	健診結果を受け取る町民
出前 第8回	10月31日（水） 13：30～14：30	「感染症（ノロウイルス等）の予防について」 「活動中の怪我に対する応急処置法につ いて」	地域医療連携室 助産師 佐藤良枝	山北町役場	子ども指導員研修会
出前 第9回	11月14日（水） 10：40～12：00	「子どもの病気や事故への対応に ついて」	地域医療連携室 助産師 佐藤良枝	開成町民センター	開成町ファミリーサポート会員 「まかせて会員・両方会員研修会」
出前 第10回	11月16日（金） 10：30～11：30	「フットケア」	外来看護師 矢野幸枝	山北町 高齢者いきいきセンター	山北町 介護予防塾の方々
出前 第11回	11月21日（水） 10：30～11：30	「フットケア」	外来看護師 矢野幸枝	山北町 清水ふれあいセンター	山北町 介護予防塾の方々
出前 第12回	11月26日（月） 10：30～11：30	「フットケア」	外来看護師 矢野幸枝	山北町 健康福祉センター	山北町 介護予防塾の方々
出前 第13回	12月12日（水） 13：30～16：30	「糖尿病について」	糖尿病チーム 柳橋崇史 佐久間裕美 大島昭宏	足柄上合同庁舎	2市8町の保健師研修
出前 第14回	12月17日（月） 14：00～15：30	「乳幼児の病気や事故への対応に ついて」	地域医療連携室 助産師 佐藤良枝	南足柄市りんどう会館	ファミリーサポート職員研修
出前 第15回	3月13日（水） 15：00～15：30	「乳がんの基礎知識」	外科部長 米山克也	足柄上合同庁舎	健康増進事業・特定健診・特 定保健指導者担当者会議